

ハイライトよねやま 59

(財)ロータリー米山記念奨学会
2005年1月14日発行

1. 寄付金速報 ~2005年もよろしくお願ひいたします

12月までの寄付金は、前年同期と比べ4.7%減、約4千百万円の減少でした。普通寄付金が2.6%減、特別寄付金が5.4%減です。明らかに、いまだ厳しい状況が続いています。12月27日付で「2004年度下期普通寄付金のお願い」を各ロータリークラブ宛にお送りいたしました。普通寄付金は当会活動の安定的な財源となっています。奨学事業を運営していく上での重要な寄付となりますので、お早めにご納入いただきますよう本年もよろしくお願ひ申し上げます。

2. スマトラ沖地震およびインド洋津波被災国出身の米山奨学生は今……

12月26日に発生したスマトラ沖地震と津波の被災者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。津波の主な被災国(インドネシア、スリランカ、インド、タイ、マレーシア)出身の現役米山奨学生は82人に上ります。これらの奨学生に家族の安否を確認したところ、「祖母が行方不明になっている」「おじが怪我をした」「故郷の友人・知人が多数死亡、行方不明」という報告がありましたが、幸いにも、ほかに家族に被害があったという人は今のところ出ていません。中には、「来月の奨学金から少しでも義援金を出したい」「同国人の留学生会で、募金活動や被災孤児の支援活動を推進している」などの報告もありました。

学友については、地区や世話クラブのご協力も仰ぎたいと思います。各地区・クラブで学友の被災者に関する情報が入りましたら、米山奨学会事務局にもお知らせいただければ幸いです。

3. 第3回米山奨学事業フォーラム開催報告 ~地区の声を2006年度制度改編に!

12月11日(土)東京・新高輪プリンスホテルにて、第3回米山奨学事業フォーラムが開催されました。全国34地区からガバナー・エレクトをはじめとする各地区3人の代表者にお集まりいただき、地区の声をもとに、今後の米山奨学事業の方向性や制度について、熱心な議論が展開されました。後半の全体討議では、次々に発言を求める手が挙がり、「時間が足りない」とのコメントが聞かれるほどでした。報告書は、2月上旬に参加者、各地区の米山役員・委員および希望者の皆さまにお送りいたします。また、ダイジェスト版を「ロータリーの友」2月号・3月号のよねやまだより誌上で報告いたしますので、ぜひご一読ください。



フォーラムでの活発な質疑応答

4. 2005学年度新規採用奨学生の面接試験始まる!

米山奨学金応募者1,221人に対する面接試験が、1月15日から、全国34地区で実施されます。昨年の地区へのアンケート結果によると、1人あたりの面接時間は平均「10~14分」と、ここ数年延びる傾向にあります。選考基準として特に重視されるのは、「日本語が話せ、コミュニケーションをはかる意欲が高いこと」「異なる文化に対する認識を深め、理解しようとする姿勢があること」ですが、「学業成績が優秀な学生」を選んだ7地区は、すべてこれを最優先としています。面接で積極的に意志疎通をはかり、異文化理解をアピールできること、そして学業優秀であることが選考の2大ポイントといえるでしょう。最終合否は、「採点順位」「国籍割合」を重視しつつ、各地区とも合議によって決定しています。

今年も厳しい選考を経て、481人の新規米山奨学生が誕生する予定です。

5. 台湾学友会総会出席報告 ～台湾学友会から新潟県中越地震に義援金

社団法人の認可を得て8年目となる中華民國扶輪米山会(台湾学友会)の総会が、12月19日に台北市のシェラトンホテル台北で開かれました。台湾4都市に設立された本部・支部の米山学友とその家族150人が集まり、旧交を温め合いました。来賓の1人で、事実上の駐台大使である日本交流協会台北事務所・内田勝久所長の特別講演「日中台の政局舞台裏」では、ユーモアあふれるエピソードの中に、日本と台湾との絆の深さを改めて知らされました。



陳理事長(右)に義援金の感謝状贈呈

こうした学友の集まりで良く耳にする言葉があります。それは「日本のロータリアンと出会い、米山梅吉翁の精神を学んだ」と「ご恩返しをしなくてはならない」です。総会の席上、新潟県中越地震への見舞い金30万円の贈呈がありました。これは中越地震の被害をテレビで見た学友の呼びかけで始められた募金です。地震の惨状と復興に汗を流すボランティアの姿を見て、「今こそご恩返しをしなくては」と扶輪米山会の陳思乾理事長に電話で訴えたそうです。陳理事長は幹事を集めて相談をし、募金の実施を決めました。

同時に陳理事長は、被災地に留学した学友に対し、お世話になったロータリアンに電話して無事を確認するよう呼びかけました。ある学友は、「カウンセラーに何度も電話をかけてやっと夜中に通じ、ご家族の安否を尋ねたら、「元気でやっているか、子どもさんは元気か」と優しい声をかけられて逆に励まされた」と目を潤ませて話してくれました。困難な状況にあっても温かい気配りをしてくれるロータリアンに、「米山梅吉翁の精神」を見いだしたのではないのでしょうか。

(事務局長・宮崎幸雄)

6. カウンセラー研修会実施状況【中間報告】

カウンセラー研修会の推進が始まったのは2002年度。全地区開催を呼びかけた昨年は、24地区で実施され、約800人のカウンセラーが参加するまでに広がりました。3年目を迎えた今年度は、上半期中に14地区で実施されました。その中間報告をここに紹介いたします。

7割の地区で、カウンセラー同士の連帯と情報交換を目的に、グループディスカッションが行われています。「懇談会に参加して気づくことが多かった」「奨学生から逆に教えられた」「大人である奨学生との関係づくりへのヒントを得られた」「カウンセラーだけでなくクラブ全員で奨学生に声をかけることの大切さを知った」などの感想が寄せられ、普段カウンセラーとして感じていることを共有し、不安を解消できる効果が見られます。

また、地域の大学で教授となって活躍する学友を招くケースもあります。山形大学留学生センター助教授として留学生ケアを含めた活動をしているユウ ミンファンさん(世話クラブ:第2760地区・津島RC)や、岡山大学で法学部教授として活躍する張 紅さん(世話クラブ:第2710地区・広島RC)です。元奨学生としての体験談を含め、カウンセラーとの関係づくりに奨学生がいかに戸惑いをもっているか、などの実感を伴った話は共感を呼ぶようです。主催する地区では、巣立った奨学生を講師として迎え入れることの喜びもあるようです。

年度末までの6カ月、各地区での工夫を凝らした研修会がこれからも繰り広げられます。

(財)ロータリー米山記念奨学会 編集担当: 峯・野津・大庭
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館ビル8階
Tel: 03-3434-8681 Fax: 03-3578-8281
E-mail: highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL: http://www.rotary-yoneyama.or.jp/